

# 国民の声が政治を動かした。苦難解決へ全力

## ネット大阪府活（11日）での清水忠史衆院議員の国会報告

新型コロナウイルス感染拡大に伴う「緊急事態宣言」が5月31日まで延長されました。安倍総理は4日の記者会見で、家賃負担の支援、雇用調整助成金の拡充、アルバイト学生への支援について追加措置を約束しました。医療・補償の緊急策を実行しつつ、第二次補正予算案を速やかに編成することを求めています。また、宣言の解除の基準としては、PCR検査体制を抜本的に増やし、感染の全体像を把握すること、医療提供体制の抜本的な強化をはかることが欠かせません。この点でも政府に対応を求めています。

### ●「一人10万円」予算組み直す前代未聞の対応

日本共産党は、外出の自粛や休業に対して一体的な補償を求めてきました。当初、政府は所得が大幅に減少した世帯に30万円を支給するとしていましたが、対象範囲が限られ、必要な人に支援が行き届かないこともあり、一律給付を求める声があがっていました。市民と野党が声をあげ、日本に在住するすべての人に、一律10万円を支給する特別定額給付金を実現させました。これにより、政府は一度閣議決定した補正予算を組み直すという前代未聞の対応に迫られました。国民の声が政治を動かしたことに確信を持ちたいと思います。

また、野党は共同して、医療機関への財政支援の拡充、中小企業やフリーランスへの持続化給付金の倍増や、家賃支援のための予算措置、雇用調整助成金のさらなる増額と、地方創生臨時交付金の追加など、補正予算の組み替えを求めてきました。

家賃支援については4月28日に野党共同で法案を提出。与党からも家賃の3分の2を補助する案が検討されています。雇用調整助成金についても、8330円ではあまりに低い、イギリスでは月額33万円まで補償していると紹介し、改善を求めてきましたが、自民党から1万5千円に引き上げるとの声が出てきました。これらも、市民と野党が力をあわせ、世論と運動を広げてきたからだだと思います。引き続

き、学費免除やアルバイト学生の支援、児童扶養手当の増額へ、野党共同して法案成立をめざして力を尽くします。

### ●申告期限の延長など前向きな対策

日本共産党国会議員団は、地方議員や民主団体等から寄せられる、様々な相談や要求を解決するために日々奮闘しています。私自身は、この間、財務金融委員会で、申告納税の期限延長、納税猶予の緩和措置を求め、特別定額給付金の差し押さえをさせないことを国税庁に約束させてきました。また、派遣切り労働者の実態を告発し、大臣に「雇用と住居を同時に失うことは、あってはならないこと。打開策が必要だ」と答弁させました。フリーランスのみなさんはじめ、必要な方すべてが持続化給付金の対象となるよう、週明けの国会論戦に挑みます。

今回のコロナショックは、リーマン・ショックを上回る経済不況をもたらしています。国民生活と中小企業の営業を守るため、今こそ、消費税率5%への減税を求めています。

### ●政治への信頼取り戻す

「アベノマスク」2枚に対する国民の批判は大きなものでありました。政治に対する信頼を今こそ取り戻すべきです。その上で、集団的自衛権の容認と同様に、閣議決定で法解釈を都合よく変える、検察庁法改定案は廃案にするべきです。もちろん、森友事件の真相究明についても遠慮することなく追及することが野党の責任だと思っています。宮本岳志さん、辰巳孝太郎さんと連携して取り組んでいきます。

最後に、私も引き続き、地方議員や党支部のみなさんと連携を強め、要求実現と苦難軽減、相談の解決へ力を尽くします。ともに頑張りましょう。



「コロナの要望  
共産党へ」

### 宣伝に共感

8日に取り組まれた宣伝行動はコロナ禍で「近畿いっせい」としては取り組めませんでした。困りごとは共産党への訴えに共感が寄せられました。

◆「コロナ問題のプラスターをよく見てくれる」（近鉄奈良・西大寺駅）、大和高田市で太田県議、所市議が商店街で聞き取った声を紹介し「困りごとは共産党にお寄せください」と訴え（近鉄浮孔駅）

◆乗降客は3割程度だが、ピラはよく受け取ってくれた（近江鉄道新八日市駅など）

◆人が少なかったが、客待ちのタクシー運転手が「制度紹介ピラ」を求めてきた（JR京都駅）

20近畿ブロック事務所ニュース

Tel06(6975)9111 Fax06(6975)9115

【府県・地区・地方議員御中】

No. 26(2020.5.11)